

会員研修会

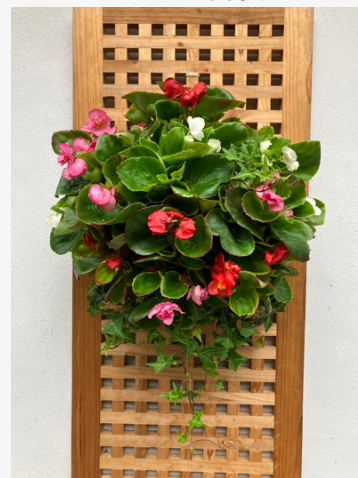
熱心な会員からの要望に応え、定例作業（月末）の後に先輩が講師となって研修会を行なっています。これまで、苔玉や香りのサシェづくり、ハーブスプレーや多肉植物のエッグプランツ、ハンギングバスケットづくりや作業に使うハサミの研ぎ方まで行ってきました。研修会は新人さんからベテランさんまで大好評です。

◆ハンギングバスケット研修会 2024年4月28日



吉松 里美

私は今回で3回目の参加です。今までは秋に3種類位の花苗を使っていましたが、今回は3色のペゴニアとヘデラの2種類で、ヘデラはアクセント使いとの事。ペゴニア3色（白・ピンク・赤）の配置に苦労しましたが、花の色と艶やかな緑の葉のコントラストが素晴らしく、華やかな素敵なハンギングバスケットになりました。講師は黒瀬代表と近藤さん、的確な花苗選びとアドバイスで参加された皆様、各々素晴らしい作品に仕上がりました。私はヘデラを上段の右に少しと下段に3本配置しました。ヘデラの配置によって雰囲気ガラリと変わる他の方の作品を見て、2種類の花苗でも各々個性的に出来上がる事に感心しました。ハンギングバスケット作りは私にとって難しい作業ですが、仕上がった時は毎回感動して、自宅のベランダ（リビングから一番よく見える所）に飾っています。自分で花苗選びをして自宅で作れる様になるのはまだまだハードルが高いです。季節によって花苗の種類が変わるので、講師の方は花苗選び等、準備が大変かと思いますが、これからも定期的に研修会をして頂ければ大変嬉しいです！！



撮影日：5月1日 撮影場所：自宅外にて

須賀 陽子

久しぶりの参加でしたが経験者8名初心者2名で取り組みました。材料はペゴニア（ブラジル原産のペゴニア数種類を交配させて作出された園芸品種）とヘデラ（キツタ属の植物の学名）数種類。材料調達から準備とご指導、役員の方々の協力に感謝します。講師の黒瀬さんからは経験者は今回は一から自分で考えながら制作するという課題を与えられました。会員である安武園芸勤務の近藤さんにも優しく指導していただきました。結果は画一的でない個性豊かなセンスの作品をお互いに鑑賞できたので大変有意義で楽しい研修になりました。大事に管理して楽しみます。



撮影日：5月25日 撮影場所：自宅にて

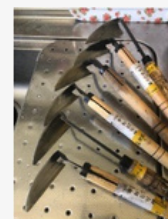
◆ 道具の手入れの仕方、研ぎ方 2024年7月28日

米倉 浩美

講師の谷口相談役から園芸ハサミや鎌などの手入れの仕方、研ぎ方を伝授していただきました。忘れないうちにと早速、花の活動団体で使うねじり鎌数本を、教えていただいたようにケンマロンでサビ取り・汚れを落とし、砥石で研ぎました。ひたすら磨いていると無心になりピカピカになりました。以前は多少サビていても気にならず使っていましたが、道具の手入れ研修を受けてからは、ハサミやねじり鎌のサビが気になって、手入れする機会が増えました。ハサミなど園芸用道具は数年で買い替えるものと思っていました。が、きちんと手入れすれば半永久的に使うことができるのですね。これからは道具を大切にしたいと思います。



手入れ前：サビたねじり鎌



手入れ後：ピカピカの鎌

ボタニカルライフスクエア 【一人一花ハッスル事業体験講座】実施

北野 多美子

一人一花ハッスル事業は(公財)福岡市緑のまちづくり協会が実施しておりその事業の一環に【ボタニカルライフスクエア一人一花ハッスル事業体験講座】があります。

園芸福祉ふくおかネットは当初より参加しており、今年度は6月15日(土)と9月14日(土)に「オリジナルハーブスプレー作り」を実施しました。

「オリジナルハーブスプレー作り」は子どもさんからシルバー世代まで幅広く体験していただけますし、何といても自分の好みの香りをスプレーに出来るので好評を博しました。

香りは個人の好みや季節にも相違があるので、アロマオイルは7種類(オレンジスイート、ゼラニウム、ペパーミント、マンダリン、ラベンダー、レモンティートウリー、ユーカリ・シトリオドア)を揃えました。

体験者からは「気軽に簡単に出来て楽しかった」「自分の好きな香りで癒しの空間を満喫します」「家族や友人にプレゼントします」などの感想を頂きました。

来年度も開催されるのであれば、実施回数を増やし、ハーブスプレー作りの他にも皆さんに喜んでいただける体験講座を提案したいと考えていますので、会員各位にはスタッフとして多数参加いただき、五感を通じての交流を体感していただきたいと思ひます。

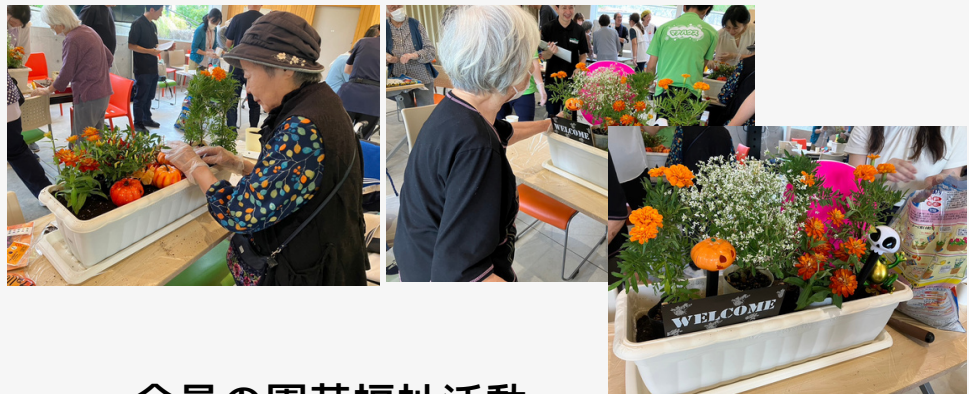


高齢者施設の方へ寄せ植え指導

近藤 由紀子

9月は認知症月間ということで、20日に開催された株式会社welzoさん主催の植物園オレンジガーデニングオリジナル寄せ植え作り会に、黒瀬代表、諫山副代表、そして私の3人で寄せ植えづくりの指導をさせていただきました。参加者はいくつかの高齢者施設のスタッフさんと利用者さんです。皆さんそれぞれに事前に構想を練り、オブジェを用意（手作りも多数）されており、会場では、「ああでもない。こうでもない」とプランターの中に個性豊かな世界を作っていました。日頃、園芸店で勤務する傍ら高齢者デイサービスにも勤める私ですが、高齢者施設の方々が、こんなにも熱気に包まれたイベントを今まで見たことがありませんでした。

「いつもと違う場所で、新しい人達と、新しいこと（園芸）をする」
これは認知症予防にはもちろん、人生を豊かにするのにとても有効な要素であると再認識することができました。



会員の園芸福祉活動

◆ 障がい者施設での園芸活動

溝口 孝夫

令和5年度に異動した学校での園芸活動です。令和5年4月に訪問教育部所属となり北九州市小倉南区にある重度心身障がい者（児）施設で学習指導を担当するようになりました。生徒は67歳から26歳まで12名（令和5年時）で各自の障がいの実態も多様でした。

健康に留意しながら年に2回の園芸活動を安全に取り組みるように生徒一人一人の活動方法や配慮事項を話し合っており取り組みました。

例えば目が不自由な生徒への指導では、担当が言葉かけをしながら危なくないことを伝えて手を添えて資材の硬い、軟らかい、形状、材質などの感触を感じてもらいました。花苗を鉢に定植する前に香りや葉や花の感触を体感して五感で感じてもらいました。他の生徒も過去に園芸活動の経験もあって、以前の活動を思い出しながら興味をもってみなさん楽しく活動に参加していただきました。花を植えた鉢は、フラワースタンドに並べて施設の玄関をきれいに彩ってくれました。

生徒は、病棟での生活が中心で外へ出る機会も少ない環境ですが、登校時に水やりを行うことで、花を育てるという目的ができ、外に出る機会ができました。自分で水やりをしたいとジョウロを握って、水やりを楽しむ生徒や自分が植えた鉢を指さして「これ、私が植えたの」「きれい」と喜んで声を発して笑顔で教えてくれる生徒もいました。年齢や体調に配慮して無理をせず水やりや散歩を楽しみました。また、屋外で日に当たり、鳥のさえずりや虫の声、木々の変化などに四季の移り変わりを感じて生活の中に「癒し」を感じることもできました。学習活動の一つの取り組みではありますが日常では味わえない楽しい時間の過ごし方や、それを体感できる場所や空間の提供がこの園芸活動を通してできたと思っています。

